

# 心理学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
実験心理学概論 (心理学概論)	心理学概論	2	阿部 恒之	前期 水曜日 2 講時	
実験心理学概論 (心理学概論)	心理学概論	2	坂井 信之	後期 月曜日 3 講時	
社会心理学概論 (社会・集団・家族心理学)	社会・集団・家族心理学	2	荒井 崇史	後期 金曜日 3 講時	
社会心理学概論 (社会・集団・家族心理学)	社会・集団・家族心理学	2	辻本 昌弘	前期 木曜日 1 講時	
心理学実験	心理学基礎実験	2	河地庸介(阿部・坂井・ 辻本・荒井・齋藤)	後期 火曜日 3 講時 後期 火曜日 4 講時	
心理学研究法	心理学研究法	2	河地庸介(阿部・坂井・ 辻本・荒井・齋藤)	前期 火曜日 3 講時 前期 火曜日 4 講時	
心理学各論	ウェルビーイングの心理学	2	Wiwattanapantuwong, Juthatip	後期 木曜日 3 講時	
実験心理学各論 (知覚・認知心理学)	知覚・認知心理学	2	河地 庸介	前期 水曜日 4 講時	
実験心理学各論 (感情・人格心理学)	感情・人格心理学	2	阿部 恒之	前期 水曜日 1 講時	
実験心理学各論 (神経・生理心理学)	神経・生理心理学	2	坂井 信之	後期 水曜日 3 講時	
実験心理学各論 (心理学統計法)	心理調査概論	2	倉元 直樹	前期 月曜日 2 講時	
社会心理学各論 (文化心理学)	文化心理学	2	辻本 昌弘	後期 金曜日 2 講時	
社会心理学各論 (司法・犯罪心理学)	司法・犯罪心理学	2	荒井 崇史	前期 金曜日 3 講時	
実験心理学演習Ⅰ	知覚・認知・感性科学の展開	2	河地 庸介	後期 水曜日 2 講時	
実験心理学演習Ⅱ	感情の心理と生理	2	阿部 恒之	後期 水曜日 1 講時	
実験心理学演習Ⅲ	応用心理学（食行動）の文献研究	2	坂井 信之	前期 水曜日 3 講時	
実験心理学演習Ⅳ	Fundamentals of Psychological Measurement	2	倉元 直樹	後期 月曜日 2 講時	
社会心理学演習Ⅰ	犯罪・非行と心理学	2	荒井 崇史	後期 木曜日 2 講時	
社会心理学演習Ⅱ	コミュニティと社会行動	2	辻本 昌弘	前期 金曜日 2 講時	
心理学特殊実験Ⅰ	心理学特殊実験Ⅰ	2	辻本昌弘 (阿部・坂井・荒井・河地)	前期 火曜日 3 講時 前期 火曜日 4 講時	
心理学特殊実験Ⅱ	心理学特殊実験Ⅱ	2	辻本昌弘 (阿部・坂井・荒井・河地)	後期 火曜日 3 講時 後期 火曜日 4 講時	

科目名：実験心理学概論（心理学概論）／ General Psychology (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：阿部 恒之

コード：LB33205 科目ナンバリング：LHM-PSY206J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理学概論

2. Course Title (授業題目) : General Psychology

3. 授業の目的と概要：心理学の幅広い領域を講義し、心理学の基礎を概観する。

適宜、実験や調査への協力を呼びかけるので、それに参加して実際の心理学研究に触れてもらう。

キーワード： 心理学史、学習、知覚、社会心理学、応用心理学

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course covers the wide area of psychology to help students understand the basic psychology.

Psychological experiments and researches will be held and students participate in them as active learning.

Key words: history of psychology, learning, perception, social psychology, applied psychology

5. 学習の到達目標：

心理学の成り立ちや、人の心の基本的な仕組み・働きを中心に、心理学に関する広範な視点を身に着ける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : This course is designed to help students gain the perspectives on the common image of psychology, e. g., psychological history and fundamental structure/function of mind.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は Classroom を用いた遠隔授業方式で実施する（クラスコードは f6t6iqa ）

内容を以下に示すが、教科書の章立てに基づいて講義を行う。詳細は初回授業で説明する。

1 回目 心理学と諸科学

2 回目 心理学の歴史：ヴェント以前の心理学

3 回目 心理学の歴史：科学的心理学の成立と展開

4 回目 心理学の歴史：計算機科学と脳科学の影響

5 回目 心理学の諸分野：系統発生的基盤

6 回目 心理学の諸分野：個体発生的基盤

7 回目 心理学の諸分野：認知的基盤

8 回目 心理学の諸分野：言語的基盤

9 回目 心理学の諸分野：社会的基盤

10 回目 心理学の諸分野：制度的基盤

11 回目 心理学の諸分野：文化的基盤

12 回目 心理学の諸分野：適応的基盤

14 回目 心理学の諸分野：個人的基盤

15 回目 まとめ

8. 成績評価方法：

期末レポート (20%)、小レポート (50%)、実験調査への参加等の平常点 (30%)

9. 教科書および参考書：

教科書：心理学の視点 24 (阿部恒之ほか 5 名著、国際文献社) ISBN978-4-902590-23-4

授業中に輪読するので必携のこと。

10. 授業時間外学習：テキストの予習・復習を十分に行うこと。また、授業で修得した心理学的視点で日常生活を眺める習慣をつけ、理論と生活を結びつけて欲しい。

実験・調査の多くは時間外学修として実施するので、必ず参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

レポート等、全ての提出物は受講生全員で共有するので、それを前提に作成すること。

科目名：実験心理学概論（心理学概論）／ General Psychology (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：坂井 信之

コード：LB41302 科目ナンバリング：LHM-PSY206J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理学概論

2. Course Title (授業題目) : Introduction to Psychology

3. 授業の目的と概要：毎回実生活で生じる様々な事象を取り上げ、それらを実験心理学ではどのように解釈できるかということを実験例を挙げながら説明する。また、実験とはどのようなものかということを実感してもらうため、実験や調査への協力を求める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course aims to help the students understand how psychology tell and solve the events and the problems occurred in our daily lives. This course requires the students to participate the survey or/and the experiments in the psychology laboratory.

5. 学習の到達目標：

実生活に見られる心理学的現象について、実験心理学ではどのようにアプローチしていくかについて理解し、日常生活で生じる問題が解決できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The goal of this course is to understand and to deal with the psychological problems occurred in our daily lives by the knowledges and the skills introduced in this course.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：心理テストと性格検査（導入）

第2回：心理学と諸科学

第3回：心理学の歴史 I

第4回：心理学の歴史 II

第5回：心理学の歴史 III

第6回：心理学の諸分野：個体発生的基盤

第7回：心理学の諸分野：認知的基盤

第8回：心理学の諸分野：言語的基盤

第9回：心理学の諸分野：社会的基盤

第10回：心理学の諸分野：制度的基盤

第11回：心理学の諸分野：文化的基盤

第12回：心理学の諸分野：適応的基盤

第13回：心理学の諸分野：個人的基盤

第14回：心理学の展開

第15回：まとめ

定期試験

8. 成績評価方法：

定期試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）

9. 教科書および参考書：

心理学の視点 24 阿部恒之ほか5名 国際文献社 2012

10. 授業時間外学習：毎回の授業に関する小レポートへの回答が必要である。また、心理学に関する様々な調査・実験に参加し、心理学の知見の習得方法を体験する必要もある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

この授業は原則として対面にて実施する。詳細は Classroom で通知する予定である。

なお、復習と次週の予習のため、小レポートへの回答が必須であり、小レポートへの回答は 90 分程度必要となることを予め理解しておくこと。

科目名：社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）／ Social, Group and Family Psychology (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：荒井 崇史

コード：LB45306 科目ナンバリング：LHM-PSY207J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会・集団・家族心理学

2. Course Title (授業題目)：Social, Group and Family Psychology

3. 授業の目的と概要：本授業では、社会心理学における基礎的なトピックス（社会的認知、態度、対人関係・対人行動、集団的相互作用、家族の機能等）についての知識を深めることを目的とする。授業では、各トピックスの基礎知識及び最新の研究を講義形式で紹介する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to deepen the knowledge of basic topics in social psychology (social cognition, attitudes, interpersonal relationships and interpersonal behaviors, group interactions, family functions, etc.). In class, basic knowledge of each topic and the modern research will be introduced in the form of lectures.

5. 学習の到達目標：

社会的認知、態度、対人魅力、援助行動、攻撃行動、集団の影響、家族の機能等、本授業で取り上げるトピックスに関する社会心理学的理論を理解し、説明することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course will enable students to understand and explain social psychological theories about topics covered in this class, such as social cognition, attitude, interpersonal attraction, helping behavior, aggressive behavior, group influence, and family function.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【授業の実施形態】

この科目は原則対面で授業を実施します。ただし、社会的状況によってやむを得ない場合にはオンラインで実施することもあります。授業にあたって、この科目ではGoogle Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。授業の開始前に、必ずGoogle Classroomにアクセスし、クラスに参加してください。

1. 全体ガイダンス：社会心理学の概説
2. 対人認知の歪み
3. 原因帰属
4. 態度とは何か？
5. 態度変容
6. 説得的コミュニケーション
7. ステレオタイプと偏見
8. 対人関係の形成
9. 対人関係の発展
10. 対人コミュニケーション
11. 援助行動と攻撃行動
12. 集団におけるパフォーマンス
13. 集団への同調と服従、そして逸脱
14. 家族の人間関係
15. 本授業の総括と知識確認

8. 成績評価方法：

最終試験／レポート 60%

受講態度 40%（授業内課題 20%，その他 20%）

※やむを得ない事情（忌引き・病気等）で欠席した場合には、その根拠資料（診断書等）を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

9. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。ただし、参考書を講義中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：初回の授業で紹介する参考文献を、予習として早いうちに通読することを求める。また、各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進める。したがって、各回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要となる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

科目名：社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）／ Social, Group and Family Psychology (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘

コード：LB34104 科目ナンバリング：LHM-PSY207J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会・集団・家族心理学

2. Course Title (授業題目)：Social, Group and Family Psychology

3. 授業の目的と概要：2 者関係から社会全体までさまざまなレベルの集団や集合体を視野に入れて人間の社会性を論じる。授業では社会心理学の理論モデルや研究例を、日常の具体的現象に関連づけながら解説していく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：An introduction to social psychological research and theory regarding interpersonal relations and group processes.

5. 学習の到達目標：

社会、集団、家族に関する社会心理学の代表的な理論モデルと研究例を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students understand social psychological theories and research.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

オンラインにより授業をおこなう

1. 態度と行動

2. 社会的影響

3. 社会的現実の構成

4. 多数派と少数派

5. 集合行動

6. 相互依存関係

7. 社会的ジレンマ

8. 援助行動

9. 規範と信頼

10. 文化の影響

11. 集団間関係

12. 社会的自己

13. 集団意思決定

14. 家族の機能と関係

15. まとめ

8. 成績評価方法：毎回実施する小テスト（100%）

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。授業中に適宜、参考書を紹介する。

10. 授業時間外学習：各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進めます。毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要です。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

学習の一環として心理学の実験・調査への参加を要望することがある。履修希望者が多すぎる場合には履修者を制限することがある。新型コロナウイルスの感染状況により授業形態を変更する可能性があるため、初回のガイダンスなど通知を確認するようにしてください。

**科目名：心理学実験／ Psychological Experiment (Experimentation)**

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時, 後期 火曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：河地庸介（阿部・坂井・辻本・荒井・齋藤）

コード：LB42306 科目ナンバリング：LHM-PSY208J 使用言語：日本語

**【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】**

**1. 授業題目：心理学基礎実験**

**2. Course Title (授業題目)：Basic Psychological Experiment**

**3. 授業の目的と概要：**心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習メニューは毎回異なる。心理学実験では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究法では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。

**4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：**In this course, the students are required to learn and acquire the knowledges and the skills essential in the psychological studies. The topics introduced in this course are described below.

**5. 学習の到達目標：**

心理学実験の基本を実験を通じて学び、基本的スキルを習得する。

**6. Learning Goals (学修の到達目標)：**The purpose of this course is to learn and acquire the knowledges and the skills essential in the psychological studies.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

この科目は対面での授業を基本とする。

ただし、感染状況に応じてオンライン・オンデマンド授業を行う。

なお、授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

1. オリエンテーション
2. 感情の測定（ポリグラフィー）
3. 心理物理学的測定法
4. 幾何学的錯視
5. 一対比較法
6. 感覚の尺度化
7. 反応時間
8. ゲーム理論に基づく実験
9. 信号検出理論
10. 潜在的態度の測定
11. 脳機能の計測法（NIRS）
12. 官能評価法とその応用
13. 心理学の応用 1（裁判所）
14. 心理学の応用 2（市場調査）
15. まとめ

**8. 成績評価方法：**

レポート [60%], 出席 [40%]

**9. 教科書および参考書：**

Google Classroomにて指示する。

**10. 授業時間外学習：**毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

**12. その他：**

履修は原則として心理学専修の2年次学生に限る。

前期の心理学研究法と連続履修すること。ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。

**科目名：心理学研究法／ Psychological Methodology (Research Method)**

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時. 前期 火曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：河地庸介（阿部・坂井・辻本・荒井・齋藤）

コード：LB32308 科目ナンバリング：LHM-PSY209J 使用言語：日本語

**【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】**

1. 授業題目：心理学研究法

2. Course Title (授業題目)：Psychological Research Method

3. 授業の目的と概要：心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習テーマは毎回異なる。心理学実験では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究法では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。なお、以下の授業計画は担当者の都合などによる変更の可能性がある。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, the students are required to learn and acquire the knowledges and the skills essential in the psychological studies. The topics introduced in this course are described below.

5. 学習の到達目標：

心理学実験・調査法などの基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to learn and acquire the knowledges and the skills essential in the psychological studies.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業を基本とする。

ただし、感染状況に応じてオンライン・オンデマンド授業を行う。

なお、授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

1. オリエンテーション
2. 研究倫理
3. 心理統計の基礎
4. 心理統計解析法
5. 文献検索・レポート作成法
6. 実験法 1 (基礎)
7. 実験法 2 (動物実験)
8. 質問紙法 (作成と実施)
9. 観察法・フィールドワーク
10. 面接法
11. 質問紙法 (実施後の処理)
12. 心理検査法
13. 心理検査法 (WAIS-III実施)
14. コンピュータによる刺激制御法
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート [60%], 出席 [40%]

9. 教科書および参考書：

Google Classroomにて指示する。

10. 授業時間外学習：毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

履修は原則として心理学専修の2年次学生に限る。

後期の心理学実験と連続履修すること。ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。

**科目名：心理学各論／ Psychology (Special Lecture)**

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：Wiwattanapantuwong, Juthatip

コード：LB64301 科目ナンバリング：LHM-PSY301J 使用言語：2カ国語以上

**【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】**

1. 授業題目：ウェルビーイングの心理学

2. Course Title (授業題目)：The Psychology of Well-being

3. 授業の目的と概要：1946 年の世界保健機関 (WHO) 憲章の草案の中で、「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態 (well-being) であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と定義されている (厚生労働省)。本講義では、「ウェルビーイング」の概念を紹介し、様々な観点を紹介する。講義の後半は自然災害や感染症が広まった「非常時」のウェルビーイング研究について論ずる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The constitution of the World Health Organization (WHO) in 1946 rose the term of 'Health' as a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity. This course will introduce you to the world of well-being as it has been discussed in the various viewpoints. The second half of this course may include the study of 'well-being during the mass crisis' such as, natural disaster and pandemic diseases as a part of my current research studies.

5. 学習の到達目標：

1. 受講者は、ウェルビーイングの定義、測定方法及び、他の心理学概念との関連を説明することができる。
2. 受講者は、自然災害やコロナ感染症などの「非常時」と「平常時」のウェルビーイングの変化を見分けることができる。
3. 受講者は、ウェルビーイングの概要を考察し、現在注目されている問題との関連を把握できる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Students can explain the definition of well-being, the way to measure well-being, and its relationship with other psychological factors.

2. Students can identify the change of well-being between the 'usual time' and 'unusual time' such as, natural disaster and COVID-19.

3. Students can discuss the concept of well-being in current issues.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この講義は Zoom を介してタイと日本をつなぐオンライン講義である。授業に関する各種情報は文学部・文学研究科の HP 等でお知らせするので、各自確認いただきたい。

1. ウェルビーイングの定義とその使い方
2. 異文化・違う世代のウェルビーイングとその測定法 (1)
3. 異文化・違う世代のウェルビーイングとその測定法 (2)
4. 異文化・違う世代のウェルビーイングとその測定法 (3)
5. ウェルビーイングと他の心理学概念の関連性 (1)
6. ウェルビーイングと他の心理学概念の関連性 (2)
7. ウェルビーイングと SDGs
8. 非常時のウェルビーイング (1)
9. 非常時のウェルビーイング (2)
10. 非常時のウェルビーイング (3)
11. 非常時のウェルビーイング (4)
12. 非常時のウェルビーイング (5)
13. 研究紹介：The Well for Life Project (1)
14. 研究紹介：The Well for Life Project (2)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 60%

受講態度 40% (授業内での議論への参加度)

※やむを得ない事情 (忌引き・病気等) で欠席した場合には、その根拠資料 (診断書等) を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

9. 教科書および参考書：

website of The Stanford Well for Life Project

<https://med.stanford.edu/wellforlife.html>

10. 授業時間外学習：各回の授業内容について、事前に予習を行い、その内容を把握しておくこと。また、その内容に関する議論に耐えうるだけの知識を身につけておくこと。事前の予習は、教科書や配布する資料等を参考にするとともに、各回の授業内容と関連する文献を読んでおくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名:実験心理学各論(知覚・認知心理学) / Psychology of Perception and Cognition (Special Lecture)

曜日・講時:前期 水曜日 4講時

セメスター:5 単位数:2

担当教員:河地 庸介

コード:LB53404 科目ナンバリング:LHM-PSY312J 使用言語:日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名:】

1. 授業題目:知覚・認知心理学

2. Course Title (授業題目):Perceptual and Cognitive Psychology

3. 授業の目的と概要:人間は、意識的かどうかにかかわらず、外界の事物や自分や他者の状態等の多種多様な情報を認識し、行動を選択し、外界や他者に働きかけながら生活している。本講義では、このような情報のやりとりを支える感覚・知覚・注意・記憶・思考といった「こころ」の様々な機能を幅広く理解し、さらにはそれらの機能を実現する脳内メカニズムを理解することを目指す。適宜、錯覚等のデモンストレーションや心理学実験の実体験に加えて、最新の脳科学的知見や話題を織り交ぜながら講義を進めていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要):We consciously or unconsciously perceive various information from internal and external environment, choose an adaptive behavior based on perceived information, and interact with internal and external environment. In this course, we will aim at comprehensively understanding adaptive mental functions such as sensation, perception, and cognition. This course will include many demonstrations of psychological phenomenon and experiments.

5. 学習の到達目標:

日常生活の中で体験する自分自身や他者の「こころ」にかかわる現象を認知心理学の立場から考察し、近年様々なメディアで取りあげられている心理学や脳科学に関する話題を理解・評価できる力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標):This course aims to improve the ability to analyze psychological phenomena from the point of cognitive psychology and to understand and evaluate psychological topics from the media.

7. 授業の内容・方法と進度予定:

この科目は対面での授業を基本とする。

ただし、感染状況に応じてオンライン・オンデマンド授業を行う。

なお、授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. 知覚・認知心理学の歴史
2. 知覚・認知心理学で用いる「こころ」の測り方
3. 世界を感じるための「こころ」の基本特性
4. ものを「見る」機能(1):色・運動・奥行き等
5. ものを「見る」機能(2):形・物体認知・群化等
6. 音を「聴く」機能
7. ものを「触る」・「嗅ぐ」・「味わう」機能
8. 様々な感覚情報を組み合わせる機能:マルチモーダル知覚
9. 注意することで感じられること・感じられないこと
10. 注意とその障害
11. 様々な記憶とその限界
12. 様々な記憶とその障害
13. イメージする機能
14. 問題解決にみるこころの特性:アルゴリズム・ヒューリスティックス
15. 推論する機能

8. 成績評価方法:

試験もしくはレポート(80%)およびコメントシートの提出(20%)をもとに評価する。

9. 教科書および参考書:

必要に応じてプリントもしくはPDFファイルを配布する。

10. 授業時間外学習:講義内で提示されるキーワードや重要研究について、論文・書籍・URLなどを通して理解を深めること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness:

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他:

科目名：実験心理学各論（感情・人格心理学）／ Psychology of Emotion and Personality (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 1 講時

semester：5 単位数：2

担当教員：阿部 恒之

コード：LB53104 科目ナンバリング：LHM-PSY313J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：感情・人格心理学
2. Course Title (授業題目)：Psychology of Emotion and Personality
3. 授業の目的と概要：具体的な研究事例に触れながら，感情と人格について総合的に学ぶ。

キーワード： ジェームズ-ランゲ説・キャノン-バード説・ストレス・交感神経副腎髄質系・HPA 系・自尊心・自意識

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course covers many topics of actual researches on psychology to help students deepen their understanding of emotion and personality.

Key words: James-Lange theory, Cannon-Bard theory, stress, sympathoadrenal axis, HPA axis, self-esteem, self consciousness

5. 学習の到達目標：

感情と人格について以下のことを学び，日常生活における機能と影響を理解する。

- ①感情に関する理論及び感情喚起の機序
- ②感情が行動に及ぼす影響
- ③人格の概念及び形成過程
- ④人格の種類、特性 等

6. Learning Goals (学修の到達目標)：In this course, students will learn about important topics of emotion and personality as follows and understand their function/effect on daily life.

- 1) Theory and mechanisms of emotion
- 2) The effects of emotion on behavior
- 3) The concept and formation process of personality
- 4) Type/trait of personality

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は一部対面を取り入れながら，基本的には Classroom による遠隔授業中心のハイブリッド方式で実施する。  
資料提供や小レポートの提出，連絡などは Classroom を通じて行う（クラスコードは 3hydkt5）。

主な内容は以下の通り。但し，講義順序は，教科書「ストレスと化粧の社会生理心理学」の内容に沿い，講読を中心に進め，投影で要点を押さえる。詳細はガイダンスで伝える。

- ① ガイダンス，感情の基礎
- ② 感情の生物学的基盤
- ③ 感情の理論 1 古典的理論
- ④ 感情の理論 2 基本的感情説と次元説
- ⑤ 感情の理論 3 身体性を巡る理論の整理
- ⑥ 感情と行動
- ⑦ 感情の測定
- ⑧ 援助行動と共感性
- ⑨ 感情の制御・調整
- ⑩ 人格の概念
- ⑪ 知的機能の個人差
- ⑫ 人格の形成と変容
- ⑬ 人格の理論
- ⑭ 自尊心と自意識
- ⑮ 人格の障害

8. 成績評価方法：期末レポート（30%），毎回の小レポート（50%），出席と討議への参加（20%）

上記の合計得点を踏まえて総合的に評価する。

9. 教科書および参考書： ストレスと化粧の社会生理心理学（阿部恒之著，フレグランスジャーナル社） ISBN4-89479-058-0  
授業中に講読するので必携のこと。

10. 授業時間外学習：テキストを早い段階で通読して欲しい。毎回小レポートを課すので，それを通じて復習すること。関連する論文を自ら見つけて，学んだ内容を発展的に自習して欲しい。

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：レポート等，全ての提出物は受講生全員で共有するので，それを前提に作成すること。

コンピュータの持ち込み，使用を認める。

科目名：実験心理学各論（神経・生理心理学）／ Neuroscience and Physiological Psychology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：坂井 信之

コード：LB63309 科目ナンバリング：LHM-PSY314J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：神経・生理心理学
2. Course Title (授業題目)：Neuroscience and Physiological Psychology
3. 授業の目的と概要：この授業では、人間の「脳神経系の構造および機能」、「記憶、感情等の生理学的反応の機序」および「高次脳機能障害」のそれぞれ概要について理解することを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to help students with their understanding about human neuron systems and about neural mechanisms underlying human cognitive functions such as learning, memory and emotion.
5. 学習の到達目標：  
ヒトの認知機能がどのような仕組みで支えられているかについて理解することができるようになる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understanding how human cognitive functions evoked by brains.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
授業は主に教員がスライドを使いながら解説する形式である。進度の予定は以下の通り。  
  
第1回 日常生活を支える脳の仕組み  
第2回 脳と神経の成り立ち：脳と自律神経系を中心に  
第3回 神経系の情報伝達とその柔軟性：シナプスと神経伝達物質  
第4回 大脳皮質の機能局在：前方は運動、後方は知覚  
第5回 脳を測る：電気信号と化学信号  
第6回 経験に基づく脳の変化  
第7回 人の知情意を司る脳  
第8回 ものを見るのは目か脳か？  
第9回 手を動かしているのは筋肉か脳か？  
第10回 記憶は脳のどこにどのような形で蓄えられるか？  
第11回 怒りを感じるのは脳のどこか？  
第12回 お腹が空く理由は？  
第13回 脳が変わると行動や心はどのように変わるのか？  
第14回 記憶を失った青年の話  
第15回 心の病気＝脳の病気
8. 成績評価方法：  
定期試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）
9. 教科書および参考書：  
授業中に適宜資料を配布・紹介する。
10. 授業時間外学習：毎回の授業前後に小レポートを課するので、授業内容を予習・復習しながら、そのレポートに回答する必要がある。
  - 1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
  - 1 2. その他：  
この授業は原則として対面にて実施する。詳細は Classroom で通知する予定である。  
なお、復習と次週の予習のため、小レポートへの回答が必須であり、小レポートへの回答は 90 分程度必要となることを予め理解しておくこと。

科目名：実験心理学各論（心理学統計法）／ Statistics on Psychology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：倉元 直樹

コード：LB51206 科目ナンバリング：LHM-PSY315J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理調査概論

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Psychological Research

3. 授業の目的と概要：主として計量的な心理学の方法論として幅広く使われている質問紙法や検査法，記述式のテスト，小論文，面接試験等，主観的な評価を伴う測定法を用いた尺度を開発・自作する際の技術に関わる理論的背景について学ぶ。同時に，心理検査等，心理学的測定に関わる結果を評価するための理論について，その基礎的な概念を学ぶ。信頼性，妥当性といった概念の基礎となる古典的テスト理論とその発展形である一般可能性理論，さらに探索的因子分析を中心に測定法の基礎を学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course mainly target to learn about the theoretical background related to psychological measurement such as questionnaires, psychological testing, open-ended questions, essay, interview and so on. The measurement theory is also useful for evaluating the results obtained by those techniques. We approach Classical Test Theory, that is the basis of commonly used concept 'validity' and 'reliability'. After that, we might try Generalized Theory which is the evolutionary theory of CTT or the basis of Exploratory Factor Analysis.

5. 学習の到達目標：

調査法の背景にある測定理論の基礎的な理解と論文によく用いられる指標に関するリテラシー。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Basic understanding of the measurement theory behind the survey method and literacy on indicators often used in the thesis.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション (テーマ、および、教科書の紹介) (1コマ)

2. 古典的テスト理論の基礎 (測定の定義、信頼性と妥当性、測定誤差、妥当性の諸概念、妥当性と信頼性、信頼性のモデル、共分散、標準化、相関係数、信頼性係数の定義、平行測定、信頼性係数の意味、並行測定と信頼性係数の推定、妥当性係数、信頼性と妥当性の関係、スピアマン=ブラウンの公式) (4～7コマ)

3. 信頼性の評価 (再テスト法、平行テスト法、折半法、評定法による信頼性向上の原理、スピアマン=ブラウンの公式の一般化、 $\alpha$  信頼性係数とその意味、内的整合性と測定誤差の仮定、KR 20、内容的妥当性と測定モデル、信頼性と妥当性のジレンマ、一般化可能性理論) (4～6コマ)

4. 探索的因子分析 (因子分析の基礎概念、単純構造と尺度の分類、因子軸の回転、因子分析モデルと古典的テスト理論、因子負荷量、因子得点、相関係数の構造、共通性と信頼性係数、主成分分析と因子分析、固有値と因子、探索的因子分析の手順) (3～5コマ)

5. 心理尺度作成の実際 (心理学的構成概念の構築、下位概念の整理、項目の作成、ワーディング、データ収集、テスト法と調査法、項目分析の方法、通過率とIT 相関) (1～2コマ)

6. 期末考査 (1コマ)

8. 成績評価方法：

出席 [40%程度]・討論参加 [20%程度]・期末試験 [40%程度]

9. 教科書および参考書：

(1) E. G. カーマイン・R. A. ツェラー著 (1983) 『テストの信頼性と妥当性』，朝倉書店

(2) 海保博の編著 (1984) 「心理・教育データの解析法 10 講 基礎編」，福村出版

10. 授業時間外学習：授業時間外に予習、復習を奨励する。小テストを行う場合がある。受講者の理解度に応じて指定外の参考書を利用する場合がある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

12. その他：

科目名：社会心理学各論（文化心理学）／ Cultural Psychology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘

コード：LB65208 科目ナンバリング：LHM-PSY316J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化心理学

2. Course Title (授業題目)：Cultural Psychology

3. 授業の目的と概要：文化により人間の行動や心理にどのような違いがみられるのだろうか。文化による違いはなぜ生じるのだろうか。異なる文化に接触したとき人間に何が生じるのだろうか。これらの問いを念頭に、この授業では、文化を研究主題にして成果をあげている心理学の理論と研究例を解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will learn about diversity of cultures, cultural evolution and acculturation processes.

5. 学習の到達目標：

文化心理学の代表的な理論モデルと具体的な研究例を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students understand theories and research of cultural psychology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

オンラインにより授業をおこなう

1. 文化心理学とは
2. 生まれか育ちか
3. 心と文化
4. 日本文化論
5. 東洋と西洋の比較①
6. 東洋と西洋の比較②
7. 文化と自己
8. 人類の進化 と適応
9. 適応論による文化研究
10. 移民の異文化体験
11. 文化変容の理論
12. 国民国家と文化
13. 多文化主義
14. 異文化の理解
15. まとめ

8. 成績評価方法：小テスト (50%)， 期末レポート (50%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。授業中に適宜、参考書を紹介する。

10. 授業時間外学習：各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進めます。毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要です。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

新型コロナウイルスの感染状況により授業形態を変更する可能性がありますので、初回のガイダンスなど通知を確認するようにしてください。

科目名：社会心理学各論（司法・犯罪心理学）／ Forensic and Criminal Psychology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：荒井 崇史

コード：LB55304 科目ナンバリング：LHM-PSY317J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：司法・犯罪心理学

2. Course Title (授業題目)：Forensic and Criminal Psychology

3. 授業の目的と概要：本授業では、犯罪心理学の学問的位置づけ、刑事司法制度や犯罪統計など犯罪心理学を学ぶ上で基礎的な知識、犯罪原因に関する基礎理論、そして司法・犯罪分野における心理学的アセスメントや援助についての知識を深めることを目的とする。授業では、各トピックスの基礎知識及び最新の研究を講義形式で説明する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, the purpose is to deepen the knowledge of the academic position of criminal psychology, basic knowledge on criminal psychology such as criminal justice system and criminal statistics, basic theory on the cause of crime, and psychological assessment and support in the field of justice and crime. In the course, the basic knowledge of each topic and the modern research will be explained in a lecture format.

5. 学習の到達目標：

本授業の到達目標は、以下の 3 点である。

- (1) 司法・犯罪分野の制度や法律、各機関における活動や活動倫理を理解する。
- (2) 犯罪原因論や犯罪機会論の視点から犯罪や非行の原因を理解する。
- (3) 司法・犯罪分野における心理学的アセスメントや心理学的援助を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course is designed to...

1. Understand the systems and laws in the field of criminal justice, and the activities and ethics of each organization.
2. Understand the criminological theory from the perspectives of cause of crime and opportunity of crime.
3. Understand psychological assessment and psychological support in the field of justice and crime.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は原則対面で授業を実施します。ただし、社会的状況によってやむを得ない場合にはオンラインで実施することもあります。授業にあたって、この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業の開始前に、必ず Google Classroom にアクセスし、クラスに参加してください。

授業内容とスケジュールは以下の通りですが、進度によって変更する場合があります。

1. 全体ガイダンス：犯罪と犯罪心理学
  2. 刑事司法制度（1）：司法・犯罪に関連する法律
  3. 刑事司法制度（2）：刑事司法制度の流れ
  4. 犯罪統計
  5. 犯罪・非行の生物学的原因（1）
  6. 犯罪・非行の生物学的原因（2）
  7. 犯罪・非行の心理学的原因（1）
  8. 犯罪・非行の心理学的原因（2）
  9. 犯罪・非行の社会学的原因（1）
  10. 犯罪・非行の社会学的原因（2）
  11. 環境と犯罪：犯罪予防
  12. 犯罪・非行の心理学的アセスメントと支援
  13. 法と心理学
  14. 科学的な犯罪捜査
  15. 本授業の総括と知識確認
8. 成績評価方法：期末試験・レポート 60%，受講態度 40%（授業内課題 20%，その他 20%）  
※やむを得ない事情（忌引き・病気等）で欠席した場合には、その根拠資料（診断書等）を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

9. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。ただし、参考書を講義中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：初回の授業で紹介する参考文献を、予習として早いうちに通読することを求める。また、各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進める。したがって、各回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要となる。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

科目名：実験心理学演習 I / Experimental Psychology (Seminar) I

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：河地 庸介

コード：LB63213 科目ナンバリング：LHM-PSY318J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：知覚・認知・感性科学の展開

2. Course Title (授業題目) : Development of Perception, Cognition, and Kansei Science

3. 授業の目的と概要：本演習では、実験心理学研究論文を取り上げ、①研究背景から研究仮説の導出、②仮説検証のための研究方法の選択、③適切なデータ処理、④研究仮説と結果との違いに基づいて述べられる考察の理解、に着目して話題提供・討論を行う。さらには、取り上げた研究の新規性についても討論を行う。演習で扱うテーマは知覚・認知・感性が基本となる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, we will read recent papers from experimental psychology and discuss them with the focus as follows: 1) the way to form a research hypothesis, 2) the selection of research methods to test a hypothesis, 3) sound data processing and analysis, 4) discussion based on the difference between hypothesis and results, 5) the novelty of the topic. Especially, we will mainly explore the topic of perception, cognition and Kansei.

5. 学習の到達目標：

①自分自身の問題意識や関心に基づいて、研究論文を選び出し、必要な情報を読み取ることを目指す。

②仮説検証方法の妥当性を評価できるようになること。

③先行研究との比較の中で、当該研究の意義・新規性を評価できるようになること。

④新たな研究課題を見つけることができるようになること。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The aims of this course are to help students 1) select a research topic and paper based on their interests and read the information they need, 2) evaluate the validity of hypothesis testing methods, 3) evaluate the novelty and significance of research, and 4) find new research questions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業を基本とする。

ただし、感染状況に応じてオンライン授業を行う。

なお、授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

1. ガイダンス (演習の進め方)

2. 話題提供・解説・討論

3. 話題提供・解説・討論

4. 話題提供・解説・討論

5. 話題提供・解説・討論

6. 話題提供・解説・討論

7. 話題提供・解説・討論

8. 話題提供・解説・討論

9. 話題提供・解説・討論

10. 話題提供・解説・討論

11. 話題提供・解説・討論

12. 話題提供・解説・討論

13. 話題提供・解説・討論

14. 話題提供・解説・討論

15. 話題提供・解説・討論

8. 成績評価方法：

出席(20%)、発表(40%)、討論への参加(40%)をもとに評価する。

9. 教科書および参考書：

授業で用いる論文について指示する。もしくは PDF ファイルの配布を行う。

10. 授業時間外学習：授業内で扱う研究論文を通読しておく必要がある。適宜、授業内で提示されるキーワードや重要研究について、論文・書籍・URL などを通して理解を深めることが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：実験心理学演習Ⅱ／ Experimental Psychology (Seminar) II

曜日・講時：後期 水曜日 1 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：阿部 恒之

コード：LB63101 科目ナンバリング：LHM-PSY319J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：感情の心理と生理

2. Course Title (授業題目) : Emotion science on mind and body

3. 授業の目的と概要：この授業では、感情心理学・生理心理学に関して議論する。講義の後、各自が授業時に示されたテキストを読み、その内容を発表し、全員で議論する。

講義を通じて、差別問題に感情がどのように関わっているか、基礎研究と社会問題がいかに密接なつながりを持っているかを理解する。

キーワード：基本感情、道徳基盤理論、差別、身体性、システム1・2

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, every student will make a presentation on an article of psychology regarding emotions/psychophysiology, and all students will discuss it.

It is required to deepen understanding relationship between discrimination problems and emotions; basic researches and social problems through the progress of this class.

Key words: basic emotions, moral foundations theory, discrimination, embodiment, system 1/2

5. 学習の到達目標：

アクティブラーニングを通じて感情心理学・生理心理学について深く理解し、心と体の関連性について定見を得る。

また、人前で発表することに慣れるとともに、発表スキルを磨く。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : This class is designed to help students understand psychophysiology/psychology of emotion, and improve presentation skill through active learning.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は対面で実施する。

資料提供や小レポートの提出、連絡などはClassroomを通じて行う（クラスコードはv7ipvm3）。

なお、感染状況によっては遠隔授業に切り替えるが、この場合もClassroomを活用する。

講義とそれに関連した学生の発表・討議を1セットとして、このセットを3回程度繰り返す。

具体的には以下の通り。

1回目 ガイダンス

2回目 基本感情講義・基本感情の資料提供

3回目 心理学の見取り図講義

4回目 発表1：基本感情

5回目 発表2：基本感情 道徳基盤の資料提供

6回目 道徳基盤理論講義

7回目 発表3：道徳基盤理論

8回目 発表4：道徳基盤理論 コロナ問題資料提供

9回目 コロナ問題の講義

10回目 発表5：コロナ問題

11回目 発表6：コロナ問題

12回目 文献検索に関する講義

12回目 文献検索による期末レポートテーマ検討

13回目 各自の期末レポートテーマ研究

14回目 発表7：期末レポート

15回目 発表8：期末レポート

8. 成績評価方法：

期末レポート（20%）、発表資料の提出と発表（60%）、出席と討議への参加（20%）

上記の合計得点を踏まえて総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

資料はClassroom経由で配布する。大学アドレスへのメールを頻繁に確認すること。

10. 授業時間外学習：英文を中心とした論文を読み、要約し、プレゼン資料をまとめ、授業中に発表してもらうので、授業準備には相応の手間がかかる。しっかりと準備して授業に臨んで欲しい。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

発表資料や期末レポート等、全ての提出物は受講生全員で共有するので、それを前提に作成すること。

発表は自分自身のコンピュータを使って、パワーポイントの資料を投影する。

科目名：実験心理学演習Ⅲ／ Experimental Psychology (Seminar) III

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：坂井 信之

コード：LB53310 科目ナンバリング：LHM-PSY320J 使用言語：2カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：応用心理学（食行動）の文献研究

2. Course Title (授業題目)：Seminars on Applied Psychology and Eating Behaviors

3. 授業の目的と概要：この授業では最初に与えられた文献（専門書）を輪読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students are required to read and summarize a chapter of a textbook (about Behavioral Economics), and then to have a presentation in the class. The other students are required to attend discussions based on the presentation.

5. 学習の到達目標：

① 心理学の知識をどのように応用すれば、人間の日常行動を理解し、諸問題を解決できるかについて、自分で考えることができる能力を身につけることができるようになる。

② 自分でまとめたことや自分の考えを他人にわかりやすく伝えることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. To know how to use and apply their psychological knowledge to solve everyday problems.

2. To have a skill to present their ideas to the other students, and to discuss with them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

最初に与えられた英語の専門書 (Eating disorders and the brainあるいはHednic Eating) を講読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。

第 1 回 導入 (講義の進め方／担当決め)

第 2 回 プレゼンテーションの方法

第 3 回 文献講読その 1

第 4 回 文献講読その 2

第 5 回 文献講読その 3

第 6 回 文献講読その 4

第 7 回 文献講読その 5

第 8 回 文献講読その 6

第 9 回 文献講読その 7

第 10 回 文献講読その 8

第 11 回 文献紹介その 1

第 12 回 文献紹介その 2

第 13 回 文献紹介その 3

第 14 回 文献紹介その 4

第 15 回 文献紹介その 5

8. 成績評価方法：

( ) 筆記試験・(○) リポート [40%]・( ) 出席

(○) その他 (発表態度) [60%]

9. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：予め割り当てられた章について予習をして、パワーポイントを用いて発表できるように準備しておく必要がある。また、発表時の質疑等に基づいて、パワーポイントを改訂し、提出する必要がある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

何か質問があれば、電子メール (nob\_sakai@tohoku.ac.jp) で問い合わせるか、電子メールで予約をした上で、研究室に質問にくること。

この授業は原則として対面にて実施する。詳細は Classroom で通知する予定である。

科目名：実験心理学演習Ⅳ／ Experimental Psychology (Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：倉元 直樹

コード：LB61207 科目ナンバリング：LHM-PSY321J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Fundamentals of Psychological Measurement
2. Course Title (授業題目)：Fundamentals of Psychological Measurement
3. 授業の目的と概要：量的方法論による心理学研究の方法論的基礎となる測定法の理論について基礎から学ぶ。古典的テスト理論 (Classical Test Theory) と項目反応理論 (Item Response Theory) を対比しながら、理念的な理解を深める。オーソドックスな輪講形式の演習スタイルを基本とするが、受講者の人数や希望によっては発展的な内容を加えたり、受講者が現在取り組んでいる研究を題材として取り交ぜる可能性も考慮する。時折、教科書の例題を基にレポートを課す可能性がある。英語論文の理解と執筆のために標準的な英語のテキストを選定しているが、受講者の希望によっては変更も可とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This class is aimed to learn the fundamentals the theory of measurement method which is the methodological basis of psychology research by quantitative methodology. The lecturer expect students' understanding will be deepened by comparing classical test theory with Item Response Theory. Although it is based on an orthodox seminar style, it is also possible to add an advanced content or a theme of the studies currently being tackled, depending on the number and attendees of students. There is also the possibility of requesting a report based on exercises in the textbook. The lecturer chose a standard English textbook for understanding and writing English papers, but we can change it depending on the student's request.
5. 学習の到達目標：  
心理学的測定論に基づく手法を使って実際に研究を行うためのデータ収集デザインを自力で構想することができるようになること。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To be able to conceive data collection designs for actually conducting research on their own using methods based on psychological measurement theory.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。
  1. イントロダクション (テーマ、および、教科書の紹介) (1コマ)
  2. Classical Test Theory (True Scores and Error Variances, Reliability Coefficient and Estimation, Formulas for Estimating a Reliability Coefficient, Factors Affecting the Reliability Coefficient, Estimating the Standard Error of Measurement, Reliability of Difference Scores) (6～10コマ)
  3. Item Response Theory (Basic Concepts and Models, Ability and Item Parameter Estimation, Assessments of Model-Data Fit, The Ability Scale and Information Functions, Item Construction and Bias, Equating, CAT) (6～10コマ)  
(参加者の履修経験と準備状況によって、前半、後半のいずれに重点を置くかを決定する)
  4. まとめ (1コマ)
8. 成績評価方法：  
出席状況 [40%程度]・小テスト [20%程度]・発表及び討論参加 [60%程度]
9. 教科書および参考書：
  - (1) Traub, R. E. (1994). Reliability for the Social Sciences: Theory and Applications, Sage, Thousand Oaks, CA.
  - (2) Hambleton, R. K., Swaminathan, H. and Rogers, H. J. (1991). Fundamentals of Item Response Theory. Sage, Newbury Park, CA.
10. 授業時間外学習：担当者は教科書の該当部分を中心に発表準備を行い、レジュメとプレゼンテーションを作成する。担当者以外の参加者は事前に教科書の該当部分を予習することが求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
12. その他：  
授業そのものは日本語で行うことを原則とする。

科目名：社会心理学演習 I / Social Psychology (Seminar) I

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：荒井 崇史

コード：LB64211 科目ナンバリング：LHM-PSY322J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：犯罪・非行と心理学

2. Course Title (授業題目)：Psychology of Crime and Delinquency

3. 授業の目的と概要：本授業の目的は、実証的な手法で実施された社会心理学並びに犯罪心理学の英文文献を多読することを通して、犯罪や非行に関連する心理学的な知識を深めることである。受講生は、事前に指定された英文文献を読むだけでなく、関連する資料を準備し、授業では発表と討論を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to deepen the psychological knowledge related to crime and delinquency through extensive reading of literature on social psychology and criminal psychology conducted using empirical methods. Students not only read designated literatures, but also prepare related materials, and present and discuss in class.

5. 学習の到達目標：

本授業の到達目標は、以下の 2 点である。

- (1) 社会心理学並びに犯罪心理学の最新の研究に触れることで、犯罪・非行に関する心理学理論や知見への理解を深める。
- (2) 心理学の英文文献を読解する力を養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course is designed to acquire following points.

1. By touching on the modern research in social psychology and criminal psychology, students will deepen their understanding of psychological theories and findings on crime and delinquency.
2. Students will develop the ability to read english literature in psychology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【授業の実施形態】

この科目は原則対面で授業を実施します。ただし、社会的状況によってやむを得ない場合にはオンラインで実施することもあります。授業にあたって、この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業の開始前に、必ず Google Classroom にアクセスし、クラスに参加してください。

1. 全体ガイダンス：授業の進め方の確認と担当の決定
2. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 1
3. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 2
4. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 3
5. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 4
6. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 5
7. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 6
8. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 7
9. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 8
10. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 9
11. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 10
12. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 11
13. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 12
14. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 13
15. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 14

8. 成績評価方法：発表・討論参加 (50%)、授業時間外学習・準備 (40%)、レポート (10%)

※やむを得ない事情 (忌引き・病気等) で欠席した場合には、その根拠資料 (診断書等) を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

9. 教科書および参考書：教科書は指定しない。発表論文は、以下の雑誌に過去 5 年以内に収録された論文に限る。

Journal of Personality and Social Psychology

Journal of Applied Social Psychology

Journal of Social Psychology

なお、発表論文については、事前に担当教員にメールにて送付すること。他受講生の発表論文は ISTU にて事前に受講生に配布するので、各自印刷等を行うこと。

10. 授業時間外学習：事前学習として、パワーポイントなどを使って、担当論文を他の履修者に説明できるように準備しておくこと。発表の担当者ではない授業の前にも、討議に積極的に参加するために、当該範囲の予習を行うこと。事後学習として、発表資料の改定を求める。

11. 実務・実践的授業/Practical business：※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：履修状況によって、授業の運営形態や発表回数が変更になることがある。初回の授業で運営形態や担当を調整するので、履修を希望する方は必ず出席すること。なお、学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

科目名：社会心理学演習Ⅱ／ Social Psychology (Seminar)Ⅱ

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘

コード：LB55211 科目ナンバリング：LHM-PSY323J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コミュニティと社会行動
2. Course Title (授業題目)：Community and Social Behavior
3. 授業の目的と概要：この授業では、コミュニティ・文化・社会行動などに関する社会心理学の論文を読解する。それぞれの論文でとりあげられている主要な理論を理解するとともに、実際に研究を進める方法論を学ぶことが目的である。受講生は、課題論文を読み、小レポートを提出する。オンライン授業では課題論文の解説をおこなうとともに、小レポートの内容についてフィードバックをおこなう。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students explore articles about community and culture. In every class, students are required to submit short reports.
5. 学習の到達目標：
  1. コミュニティ・文化・社会行動に関する社会心理学関連の理論と研究の方法論を学ぶ。
  2. 論文や文献を調べて的確に理解する力を涵養する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students learn about theories and methods of research regarding community and culture.
7. 授業の内容・方法と進度予定：

オンラインにより授業をおこなう。

  1. 導入：授業の進め方の説明
  2. コミュニティの文化と変容①
  3. コミュニティの文化と変容②
  4. コミュニティの文化と変容③
  5. 文化と問題対処行動①
  6. 文化と問題対処行動②
  7. 文化と問題対処行動③
  8. 移動・アイデンティティ・適応行動①
  9. 移動・アイデンティティ・適応行動②
  10. 移動・アイデンティティ・適応行動③
  11. 移動・アイデンティティ・適応行動④
  12. 社会問題とアクション・リサーチ①
  13. 社会問題とアクション・リサーチ②
  14. 社会問題とアクション・リサーチ③
  15. まとめ
8. 成績評価方法：毎回提出する小レポートにより評価（100%）
9. 教科書および参考書：

とりあげる論文を授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：とりあげる論文を精密に読解し、小レポートにまとめる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business
12. その他：上に示した授業計画はおおよその予定であり、履修状況に応じて調整を行うことがある。新型コロナウイルスの感染状況により授業形態を変更する可能性があるため、初回ガイダンスや通知を確認するようにしてください。

科目名：心理学特殊実験Ⅰ／ Individual Instruction on Psychological Study I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時. 前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：辻本昌弘（阿部・坂井・荒井・河地）

コード：LB52309 科目ナンバリング：LHM-PSY324J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理学特殊実験Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：Individual Instruction on Psychological Study I

3. 授業の目的と概要：心理学実験，心理学研究法，その他の心理学関連の授業で習得した実験・調査の技法に関する知識をもとに，受講生自身が教員の指導のもとに研究テーマと計画を立案し，実験や調査を行い，データの収集と分析を試みる。卒業論文研究に進むためには是非とも履修することが望ましい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will conduct research so that they can acquire practical skills of experimentation, survey, field research, and so on.

5. 学習の到達目標：

心理学の実験や調査の方法を実践的に学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：To acquire practical skills of psychological research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

オンラインと対面を併用して授業をおこなう。

1. ガイダンス

2. 研究テーマの選定 1

3. 研究テーマの選定 2

4. 文献の検討 1

5. 文献の検討 2

6. 研究計画の立案 1

7. 研究計画の立案 2

8. 実験・調査の実施 1

9. 実験・調査の実施 2

10. 実験・調査の実施 3

11. 実験・調査の実施 4

12. データの分析 1

13. データの分析 2

14. レポート作成 1

15. レポート作成 2

8. 成績評価方法：

出席 (30%)、レポート (70%)

9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：授業時に文献検討や実験・調査について指示を出すので、指定の期日までに行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

履修は、原則として心理学専修の学生に限る。次セメスターの心理学特殊実験Ⅱと連続履修すること。なお上記の授業計画はおおよその目安であり、教員の指示のもとに研究を進めること。

科目名：心理学特殊実験Ⅱ／ Individual Instruction on Psychological Study II

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時. 後期 火曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：辻本昌弘（阿部・坂井・荒井・河地）

コード：LB62308 科目ナンバリング：LHM-PSY325J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理学特殊実験Ⅱ
2. Course Title (授業題目)：Individual Instruction on Psychological Study II
3. 授業の目的と概要：心理学実験，心理学研究法，その他の心理学関連の授業で習得した実験・調査の技法に関する知識をもとに，受講生自身が教員の指導のもとに研究テーマと計画を立案し，実験や調査を行い，データの収集と分析を試みる。卒業論文研究に進むためには是非とも履修することが望ましい。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will conduct research so that they can acquire practical skills of experimentation, survey, field research, and so on.
5. 学習の到達目標：  
心理学の実験・調査の方法を実践的に学ぶ。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To acquire practical skills of psychological research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
オンラインと対面を併用して授業をおこなう。
  1. ガイダンス
  2. 研究テーマの選定 1
  3. 研究テーマの選定 2
  4. 文献の検討 1
  5. 文献の検討 2
  6. 研究計画の立案 1
  7. 研究計画の立案 2
  8. 実験・調査の実施 1
  9. 実験・調査の実施 2
  10. 実験・調査の実施 3
  11. 実験・調査の実施 4
  12. データの分析 1
  13. データの分析 2
  14. レポート作成 1
  15. レポート作成 2
8. 成績評価方法：  
出席 (30%)、レポート (70%)
9. 教科書および参考書：  
授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：授業時に文献検討や実験・調査について指示を出すので、指定の期日までに行うこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
12. その他：  
履修は、原則として心理学専修の学生に限る。前セメスターの心理学特殊実験Ⅰと連続履修すること。なお上記の授業計画はおおよその目安であり、教員の指示のもとに研究を進めること。